



松戸市立総合医療センター



医療連携 News

第206号 (2024.7)



編集・発行 松戸市立総合医療センター 地域連携室

〒270-2296 千葉県松戸市千駄堀993-1 電話 047-712-2511 (代)

医療機関各位 <https://www.city.matsudo.chiba.jp/hospital/>

松戸市立総合医療センター
病院長 尾形 章

盛夏の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素より、当院に対して一方ならぬご支援を賜りまして、厚くお礼申し上げます。

医療機関の皆様方へ毎月お送りしております「医療連携News」を是非ご高覧いただき、
また患者さんへ必要な情報を提供いただけましたら幸甚に存じます。



小児専門外来 内分泌、腎臓外来のご案内

今月号では、小児専門外来の内分泌、腎臓外来をご紹介します。



小児内分泌



成瀬裕紀 小児科副部長
(小児内分泌専門医)

現在常勤の小児内分泌専門医1名と、外来は非常勤の小児内分泌専門医2名を加えた3名体制で診療を行っています。対象疾患は、成長障害関連（低身長、高身長、過体重・肥満、体重増加不良・やせなど）、思春期関連の問題（思春期早発症・遅発症など）、甲状腺疾患や副腎疾患や尿崩症などを含めた下垂体機能異常、糖尿病などです。

また当院は新生児マススクリーニングの内分泌疾患に関する精査医療機関でもあり、マススクリーニング要精査対象者の受け入れも行っています。

具体的な症状としては、身長の伸びが悪い/良すぎる、程度が強いO脚、体重が増えない/増えすぎる、尿糖陽性などの場合には、当院への紹介をご検討ください。

ご紹介頂く際は、当院の地域連携室を通じて小児内分泌外来へご紹介いただくか、一般外来へご紹介ください。一般外来の場合は診察医の指定はできませんが、小児内分泌専門医と連携して診療いたしますので安心してご紹介いただければと思います。また成長障害を契機に重症疾患が疑われる（脳腫瘍など）、1型糖尿病の初発を疑う場合などの緊急の対応が必要な場合には、当日の小児科責任医にご相談頂ければと思います。

主な対象疾患

【低身長】

学校検診や、親御さんからのご心配を契機に受診されることが多い頻度の高い症候です。その多くは遺伝的な背景からの家族性低身長や思春期遅発症であることが多いですが、中には治療が可能な疾患が隠れていることがあります。低身長の治療のメインになるのは現在も成長ホルモンであり、昔よりも適応疾患が拡大してきているため、治療可能か否かの判断をするためにホルモン負荷試験を行うだけではなく、必要に応じて高次医療機関と連携して遺伝子学的な検査をご提案するなどして診療を行っています。中には稀ですが成長障害の原因が脳腫瘍を含めた中枢神経疾患であることもあります。その際には小児脳神経外科医と協働して診療に当たります。初診の場合には、これまでの成長の経過が大変重要な情報となりますので、親御さんへ母子手帳の持参と、幼稚園・保育園・学校での成長の記録を持参いただけるようにご指導頂けますと大変助かります。

【過体重・肥満】

コロナ禍でのステイホームの時期は過ぎ去ったものの、全世界的に過体重・肥満のお子さんが増えてきているのは依然として大きな問題です。肥満児の体重コントロールは、医学的な面だけではなく本人を取り巻く環境やソーシャル面の評価や調整などが重要であることも多く、根気と時間がかかります。臓器障害（肝障害、高尿酸血症、糖尿病など）が出ていたり、スクールパフォーマンスの低下や基礎疾患（神経発達症など）がある場合だけではなく、単に管理が難しい患者さんというだけでも、ご本人ご家族が困っているようであれば、専門外来への紹介をご検討ください。当院では、小児内分泌専門医が医学的な面を評価しつつ、栄養士・歯科衛生士などを中心に栄養指導を行いつつ、多角的に評価・介入を行っています。外来での体重コントロールが困難な症例も少なくはないですが、ご本人ご家族と相談して必要であれば入院の上で体重コントロールを行っています。

【糖尿病】

学校検診での尿糖陽性などを契機に診断された1型糖尿病や、前述のように高度肥満からの生活習慣病としての2型糖尿病、そしてそれ以外の糖尿病（単一遺伝子異常による糖尿病など）も含め当院で受け入れ及び診療を行っています。インスリンの投与方法として皮下注射とインスリンポンプの2つの選択肢があるため患者さん・ご家族のニーズにあった治療法を選択頂いています。また、簡易型自己血糖測定器に加えて、当院では現在3種類の持続血糖測定器を使用することができるため、こちらもニーズに合わせて御使用頂いています。患者さんご家族の生活がより楽になるようにこれら最新の医療機器を用いるだけではなく、栄養士による普段の食事内容の相談や見直しなども行っており、多職種によるチーム医療を提供しています。

また、1型糖尿病患者さん限定ではありますが、栄養士を中心に家族会「おひさまの会」を運営し定期的に活動をしております。年に2-3回、対面（Web）で会合を開いており今や10回を超えて参りました。会合では、1型糖尿病の疾患教育だけではなく、1型糖尿病患者・家族同士の交流や情報交換、小さなお子さん向けの工作体験や手品体験など毎回趣向を凝らした催しを行っており好評を頂いております。

【その他の内分泌疾患など】

低身長や成長障害を契機に発見される、くる病（ビタミンD欠乏性くる病や、低リン血性くる病など）や、手足短縮型の低身長を契機とした骨系統疾患、ターナー症候群・ヌーナン症候群を代表とする低身長を伴う先天性症候群なども診療を行っています。また、在宅医療のあおぞら診療所様とも協働し、重症心身障害児の栄養のコントロールなども臨機応変に対応しています。

小児腎臓



篠塚俊介 小児科副部長
(小児腎臓専門医)

南裕佳 医長
(小児腎臓専門医)

常勤の腎臓専門医2名（篠塚 俊介、南裕佳）で診療にあたっております。1歳半健診、3歳児健診、学校検尿で指摘された血尿・蛋白尿の4次精査、上気道症状のない発熱で尿路感染を疑うとき、眼瞼浮腫、下腿浮腫でネフローゼ症候群を疑うとき、胎児期や出生後の超音波検査で水腎症、水尿管症が観察されたとき、何かの精査で血液検査をした際の血清クレアチンが高止まっているとき、学童期までおねしょが続いているとき、など腎臓・泌尿器疾患を疑うお子様がいらっしゃった場合、ご相談ください。当院に

は小児外科、小児脳神経外科もございますので、疾患によっては小児外科や小児脳神経外科とも連携をしながら、重症度の高い疾患の場合は、より高度な医療機関へのご紹介も考慮しながら、患児とご家族にとって最善の医療を提供するよう努めております。

腎臓外来の紹介枠は、月曜午前：南、金曜午前：篠塚 にご用意をしておりますが、疾患によっては、平日午前中（8:30～11:00受付）の一般外来枠や午後の緊急紹介枠や、夜間救急枠での対応も致します。受診のタイミングも含めてご紹介を考慮される患児がいらっしゃいましたら、医療機関専用ダイヤルを経由してご相談いただければ、折り返しになる可能もありますが、早急に適切な受診の方法をご案内する体制としております。

主な対象疾患

【尿路感染症】

小児の発熱（特に乳幼児の発熱）の中で気道感染の次に多い疾患群と思われます。基本的には入院で抗菌薬加療を行います。先天性腎尿路異常を伴うことも多く、当科で加療を行った患児に対しては、全例に腹部超音波検査、そのほとんどに膀胱尿管造影検査を行い、尿路感染症再発の可能性を見積りながら少量抗菌薬予防投与などを行うこともございます。当科より少量の抗菌薬が長期にわたって処方されている際は、既往をご確認いただけますと幸いです。手術を要すると判断した場合は、小児外科とも連携をとりながら診療を行います。

【慢性腎臓病】

腎機能を評価する血清クレアチンは、筋肉量に比例して年齢を経るに従いその基準値も上昇していきます。（中央値、4歳0.3mg/dL、8歳0.4mg/dLが覚えやすいと思います）腎機能を評価およびその原因検索をし、なるべく腎機能の低下を抑えながら、合併症に対する対応を行っています。はからずも末期腎不全に至りそうな場合は、慢性透析や腎移植を行える高度な医療機関と連携をしながら、なるべく本人、ご家族の負担を少なくした形での診療を心がけております。

【夜尿症】

そのほとんどは成長発達と共に自然に軽快いたします。先天性腎尿路異常による二次性の可能性も踏まえての精査の要否を考えながら、夕食以降の塩分、水分制限などの日常生活習慣の調整とともに、林間学校や修学旅行などの宿泊を伴う行事のタイミングに合わせて、薬物加療などを行います。二次性の夜尿症で外科的介入を要すると判断した場合は、小児外科、小児脳神経外科とも連携を取りながら診療を行います。

【水腎症、水尿管症】

多くの産科で出生時のエコー検査をルーチン化していただくようになり、また、エコーでの機器の精度が上がることによって、なんらかの症状が出現する前にご紹介いただくことが多くなってきたように思います。一昔前までは溶連菌感染後などの急性腎炎が一位であった小児の慢性腎臓病(慢性腎不全)の原因は、先天性腎尿路異常がその多くを占めるようになりました。(コロナ後は、溶連菌感染も増え急性腎炎も増えておりますが、そのほとんどは慢性腎臓病化することなく改善しています。) 慢性腎臓病に至ることがないように精査加療を行い、必要があれば、小児外科とも連携をしながら診療を行っております。

【ネフローゼ症候群】

尿に蛋白質がもれる病気です。血液内の蛋白がある一定の値よりも低下して初めて症状が出現しますので、たまたま検査して異常に気付かれる以外に発症早期で発見されることは難しいです。血液内の蛋白が低下するにしたがって、徐々に症状が出現します。最初はまぶたが腫れぼったい事を主訴に受診され、何らかのアレルギー症状のように見えることも多いように思います。排尿が自立していないと尿検査を行うことも大変ですが、そういった患児が受診された際は、足のむくみや尿検査をご考慮いただけると幸いです。腎生検などの精査の要否、治療反応性にもよりますが、当科では4,5週間の入院加療を行っております。

当日の受診が必要と思われる患者さんや、入院治療を要するような緊急のご紹介、転院のご相談は「医療機関専用ダイヤル」へ医師よりご連絡ください。

医療機関専用ダイヤル

047-712-2585 → 「小児科責任医」

※医療機関専用ですので患者さんにはお知らせしないようにお願いいたします。



医療連携News送付先に関するお知らせ

次号(207号)より、医療連携Newsの送付先を掲載内容ごとに変更させていただくこととなりました。ホームページにて毎月更新いたしますので、ご覧いただけると幸いです。

大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。



臨時休診等お知らせ(2024年6月17日現在)

7月 医師の休診			7月 医師の代診		
整形外科	渡辺医師	2日(火)午後 4日(木)午後、18日(木) 23日(火)午後	循環器内科	26日(金)	福島医師→田澤医師
			小児科	29日(月)	花澤医師→時友医師
脳神経内科	櫻井医師	16日(火)			
耳鼻いんこう科	福井医師	17日(水)、18日(木) 19日(金)			
8月 医師の休診					
耳鼻いんこう科	磯山医師	5日(月)、7日(水) 8日(木)、9日(金)	整形外科	品田医師	14日(水)
	武山医師	19日(月)、21日(水) 22日(木)	循環器内科	堀医師	14日(水)
	福井医師	29日(木)、30日(金)		ベースメーカー 外来	9日(金)
小児科	成瀬医師	6日(火)、8日(木)			
アレルギーリウマチ科	高橋医師	13日(火)、14日(水)	眼科	樋口医師	7日(水)、8日(木) 30日(金)
脳神経内科	櫻井医師	13日(火)		吉田医師	26日(月)、28日(水) 29日(木)、30日(金)
血液内科	藤川医師	13日(火)、16日(金)			
8月 医師の代診			8月 診療科の全休診		
小児科	2日(金)	時友医師→花澤医師	血液内科		14日(水)
循環器内科	30日(金)	福島医師→田澤医師			